

第5回 生産性向上委員会〔企業見学会〕  
「麒麟ビール㈱における品質及び生産性向上に向けた  
改善活動の取り組み事例と工場見学」

2013年3月19日（火）、生産性向上委員会のメンバーでもある麒麟ビール㈱横浜工場殿に伺い、生産性向上に関する具体活動の事例紹介いただき、工場見学を実施した。

■工場概要・・・横浜工場は1870年（明治3年）に横浜山手でスプリングバレーブルワリーとして始まった。その後、1885年（明治18年）にジャパンブルワリーとなり、1888年には『麒麟ビール』の名前で発売された。1923年の関東大震災で山手工場は全壊となり、1926年（大正15年）に現在の生麦に新工場を建設、今日に至っている。大消費地の首都圏向け生産拠点として、大量の商品を安定的に供給する主力工場であると同時に、地域・市民に開かれた工場として、麒麟横浜ビアビレッジをオープン（1991年）するなどにより、消費者との関わりを大切にしている。

■取組事例・・・生産性向上の原動力は、「現場力の向上」であり、その基盤は「技術力」・「人材力」の強化と組織風土改革。「技術力の強化」は「改善提案」と「課題解決プロジェクト」で支えている。

その改善提案は従業員の平均で3.86件/人・月となっており、食品業界では2位のレベル。また、課題解決プロジェクトは部門をまたがる関連部署で課題を設定して1年単位でPDCAを回している。例えば、計量器管理基準について工場の実態に合わせて見直すなどのテーマで取り組んでいる。

■工場見学・・・仕込み（約半日）～発酵（約1週間）～貯蔵（1～2ヶ月）～ろ過・詰め～パッケージ・出荷というラインを見学した。瓶や缶の軽量化や工程途中の副産物・残渣などの再利用の取り組みも紹介された。見学後は、出来たてのビールの試飲をし、改めてその美味しさを確認した。その後、希望者による交流会をビアビレッジで開催した。

